令和5年度　学校だより4月号から

おとなができること

　穏やかな日差しが心地よい季節となってまいりました。今年度より、荏子田小学校長として赴任しました堀口直明と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

　お子さんの成長を願うとき、私はいつも、坂道のたもとで荷物の載ったリヤカーを引く子どもの姿を思い浮かべます。

　まずこのリヤカーをどこまで引けばよいのか伝えるには、めざす頂上が見えている方がわかりやすいでしょう。ただお子さんによっては頂上が見えていなくても、複雑な経路を地図にして渡すのもよいかもしれませんし、途中に見晴らし台があるからそこまで行こう、がよい時もあります。

　次に何のためにリヤカーを引くかです。何も理由がなくてもリヤカーを引くこと自体を「やりたい！」という子もたくさんいます。ある意味それ自体を体験したい！という意欲はおとなより高いと思います。そうでなくても、頂上で待っている大切な人においしいものを届けてほしい、など「あなたにこの重要なお仕事をぜひお願いしたい！」と伝えるのはどうでしょうか。

　さあ、リヤカーが坂道を坂を上り始めました。汗だくになってつらそうにお子さんはがんばっています。その時に私たちおとなはどんなことができるでしょうか。

　つらそうだけどリヤカーは動いているので、転げ落ちないようにだけ見守って後ろで応援するでしょうか。荷物が多すぎる、とそっと荷物を減らすでしょうか。後ろに隠れてわからないようにそっとリヤカーを押すでしょうか。あるいは横に並んで一緒にリヤカーを引くでしょうか。

　やがて汗だくで泣きそうになりながらも、頂上や途中の見晴らし台にたどり着いたお子さんは、必ず後ろを振り返ります。スタート地点がはるか下の方に見え、お子さんはこう言います。「うわあ、結構上ってきたなあ」

　大事なことは、お子さんが自分の力で頂上や見晴らし台まで来たと思うことだと感じています。たとえ、そっと荷物を減らしてあったり、後ろで見えないようにぐいぐいおとなが押していたりしていたとしても、です。そしてうれしそうに、半ば自慢げにこう言うのではないでしょうか。「もう汗でびしょびしょだよ！」「手が真っ赤だよ！」自分が頑張った時の充実感を表す言葉です。

　お子さんへの支援の仕方は一つではありません。どの支援が正解かもわかりません。ただ、目の前のお子さんを真摯に見続けることから、学校とご家庭ができることを一緒に考えていきたいと思います。

（校長　堀口　直明）